

最新のキャリブレーションセンサーが付属する普及型ColorEdge

# ColorEdge CS240-CNX3

## SPEC

パネル: IPS(ノングレア) / サイズ: 61cm(24.1インチ) / 推奨解像度: 1,920×1,200 / 視野角: 178度(水平/垂直) / 輝度: 350cd/m<sup>2</sup> / コントラスト: 1000:1 / 入力端子: DisplayPort×1, DVI-I×1, HDMI×1 / USBハブ×2ポート / 大きさ: 575(W)×423~553(H)×245(D) mm / 重さ: 約8.7kg

●発売日 2015年7月24日  
●実勢価格 111,024円(税込)  
(EIZOダイレクト価格)



文・榎 信康

写真提供・鶴巻育子

ColorEdgeにエントリーモデルの「CS240-CNX3」が発売した。昨年の秋に登場したCS240-CNにキャリブレーションセンサーEX3を付属したモデルになる。パネルサイズは一般的な作業環境では最適といわれる24.1型の1,920×1,200ドット。IPSのため視野角は広く、広色域LEDを使用したバックライトによりAdobe RGBカバー率は99%に達する。特に後者に関しては、これまでのCSシリーズにはsRGB相当のCS230しか存在しなかったため、大きな進歩といえるだろう。輝度やコントラストのスペックも申し分なく、総じて高い表示性能を有している。

エントリークラスとはいえどもColorEdgeシリーズ。キャリブレーションの対応もぬかりない。CXやCGなどの上位機に搭載されているコレクションセンサーやキャリブレーションセンサーは内蔵していないが、EX3が付属している。EX3はEX2の後継機になる最新型のキャリブレーションセンサー。測色性能はEX2と同等だが、

サイズが小振りになるとともに、センサー部にカバーキャップが用意された。測色時には外したキャップをカウンターウェイトとして利用する仕組みだ。ColorNavigator 6での測色方法もキャリブレーションセンサーを取り付けて実行を押すだけで自動的に調整が完了する。センサー内蔵モデルのように自動的に補正してくれることはないが、自分でセットさえすれば、いつも変わらない色合いで表示することができる。アクセサリで遮光フードも用意されているので、上位機と同等の環境をそろえることができる。

そのほか、下の別記の枠も参照してほしいが、パネル性能の高さや豊富な入力系統など、エントリークラスながらハードウェアキャリブレーションディスプレイとして十分な機能と性能を持っているのは、さすがにColorEdgeだ。正確な色で表示を試みたい、ハードウェアキャリブレーションを体験したいという人にはオススメできるディスプレイだ。

## ColorEdgeシリーズのラインアップ

### CG 4Kシリーズ

- 4Kの表示をサポート
- キャリブレーションセンサー内蔵
- フード付属



### CXシリーズ

- コレクションセンサー内蔵
- すぐに表示が安定
- 締まった黒の表示が可能



### CSシリーズ

- 色表示の基本性能はCXと同等
- ハードウェアキャリブレーション対応
- フードやスタンドのアクセサリも充実



鶴巻育子がCS240-CNX3を体験する!

レタッチやプリントにこだわりたいのなら、このディスプレイがオススメ

写真をディスプレイで確認するのなら、キャリブレーションは必須だと思っている。画像を確認するとき、レタッチするとき、プリントして確認するときなどで基準となる色が必要になる。そのときに間違った色で表示された画像ではすべての作業の意味がなくなる。そういった意味でもハードウェアキャリブレーションができるディスプレイを使っている。今回、キャリブレーションした後のCS240-CNX3で作品を見たとき、落ち着いた表現と正確な色合いをするディスプレイだと感じた。私は作品をキャノンの顔料プリンターのPRO-10Sでプリントしている。ノングレアのCS240-CNX3の発色傾向はPRO-10Sに近く、精度の高いプリントが期待できる。ディスプレイで表示されている色とプリントの色が違うと、色の差分を感覚で埋めるしかない。その曖昧さは作業時間に比例して、どうしても無駄な時間になってしまう。正確な色のディスプレイはその時間が短縮できるので非常にありがたい。最近、海

外で撮っているシリーズは暗部の階調表現に気がつかったものも多いが、その暗部もつぶれることなく、豊かな階調で表現してくれている。正確な色へのこだわり、特にプリントを多くする人には向いているディスプレイだと感じた。

サイズとパフォーマンスで  
使い勝手の良いディスプレイ



24インチという大きめのディスプレイは大きくもなく、小さすぎずちょうどいいサイズだ。撮影時に表現したいこだわった部分も正確に表現されていた

## ADVICE

## ColorNavigator 6なら簡単にキャリブレーションができる

Webコンテンツを制作するためのモード。色温度が6,500K、ガンマ2.2とsRGBで画像を扱うときに最適なモード

### ◆ ColorNavigator 6の画面



主にディスプレイで写真を見てレタッチをするモードをするときに最適なモード。輝度が高く、色の発色が良い

写真をプリントしたり、印刷物に載せるためのデータを制作するとき最適なモード。一般的には少し赤みを帯びている

### ◆ キャリブレーションは自動で行われる

キャリブレーションセンサーを装着したら「調整」をクリックする。あとは手順に従って操作をするだけで自動的にキャリブレーションが完了する。難しいことは一切ない



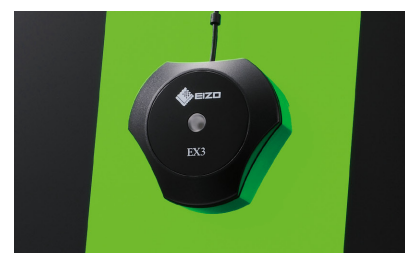
### ◆ プリント用に手動で補正もできる

プリントとディスプレイで色味が違った場合、手動で調整できるモードも用意されている。輝度では明るさ、白色度でプリントと画面の色味を調整できる



## POINT 1

正確な色再現ができる  
キャリブレーションセンサーが付属



CS240-CNX3には新型の測色センサーEX3が付属する。センサー部にはキャップがはまっており、測色の際はこれを外して、前後のバランスを取るためのウェイトとして用いる

## POINT 2

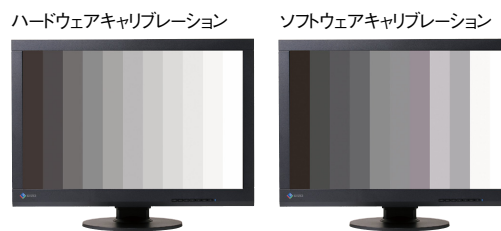
ColorNavigator 6で  
簡単に色管理ができる

ColorEdgeの魅力の一つでもあるColorNavigator 6。簡単な操作でキャリブレーションを行える。あらかじめ用意されたプリセットを選ぶか、任意の輝度、白色点などを指定した目標を作成し、測定を開始すれば良い



## POINT 3

階調表現に優れたハードウェア  
キャリブレーションに対応



ハードウェアキャリブレーションはソフトウェアキャリブレーションのようにビデオの出力信号ではなく、ディスプレイそのもののRGBを調整するため、階調が縮退しない。また調整も自動で行われるため、手間はかからずに正確なのが特徴だ

## POINT 4

縦に回転して  
表示することも可能



縦に回転できるピボット(右回り90°)に対応しており、縦位置の写真のレタッチやWeb閲覧などで役に立つ。動作もスムーズなので、手軽にポートレートと風景写真の使い分けが可能だ

## POINT 5

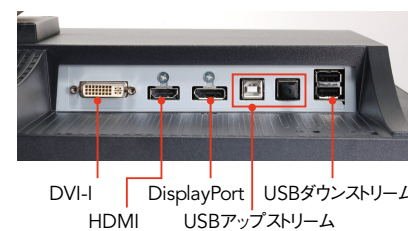
環境に合わせて  
幅の広い高さ調整ができる



スタンドの昇降幅は130mmと広い。パネル下端がスタンドベースに触れる位置まで下げられるので、目や首肩への負担が少ない見下ろした姿勢で作業が行える。下に5°、上に35°のチルト角の調整、344°まで回転できる左右回転などはほかのColorEdgeと同等だ

## POINT 6

さまざまな状況に  
対応する豊富な端子



背面の信号入力端子は実に豊富だ。DVI-I、DisplayPort、HDMIを各1系統ずつ装備しており、幅広い環境で利用が可能となる。DisplayPortとHDMIでの接続時には10bit入力にも対応する。USBダウンストリーム端子が2つ付いているのも便利だ